

# 手術時の歩行入室における患者心理について

キーワード：手術・歩行入室・患者心理

手術部

篠原真衣 吉田幸広 藤田喜美恵 神田久子

## I. はじめに

これまで、手術というと病室から手術室までの搬入にストレッチャー移送というイメージが一般的であった。しかし、ストレッチャー移送の経験のある患者からは、「大げさで恥ずかしい」との意見を聞く事がある。また、大野らは、「歩行、車椅子入室は、患者の利益ならびに業務の効率化が図られると思われ、双方にとり有効な手術室入室方法である。」<sup>1)</sup>と述べている。山口大学医学部附属病院でも、平成17年12月から歩行入室が導入された。今回、山口大学医学部附属病院における歩行入室に伴う患者の心理を調査したので、その結果をここに報告する。

## II. 研究方法

### 1. 対象者

山口大学医学部附属病院に入院し、歩行入室をして手術を受けた患者で、無作為に抽出し、意識清明かつアンケート調査に協力が得られた患者20名（男性9名：平均年齢59.8歳、女性11名：平均年齢53.5歳）である。調査期間中の手術件数は1278件、歩行入室は261名であった。回答者の属性を図1に示す。また、回答者の入院科を図2に示す。

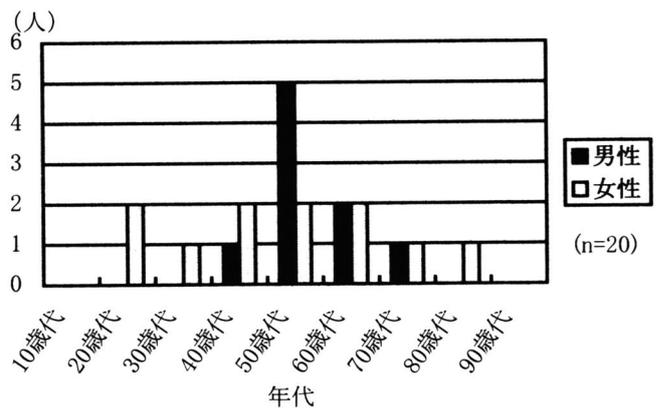


図1. 回答者の属性

### 2. 対象期日

平成18年3月31日～7月25日

### 3. 調査方法

術後3日目以降に病室を訪問し、独自に作成したアンケート用紙を用い、聞き取り調査を実施した。得られた回答は、単純集計とした。

### 4. 倫理的配慮

調査の参加者に対しては、まず、研究内容の説明を行い、この調査にだけ使用され、個人が特定されない事、調査に同意されなくても治療や看護に不利益が生じない事を説明し、承諾を得られた患者のみに調査を実施した

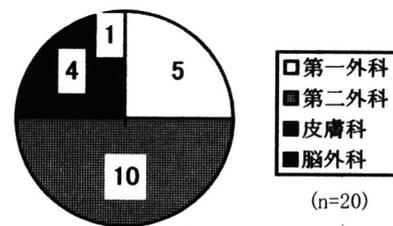


図2. 回答者の入院科

### Ⅲ. 結果・考察

#### 1. 入室時における看護師以外の同伴者の有無

看護師以外の同伴があった患者は13名(65%)、なかった患者は6名(30%)、覚えていないのは1名(5%)であった。患者と同伴者の関係では、配偶者8名(40%)、子供7名(35%)、親族4名(20%)であった。

#### 2. 点滴の有無

歩行入室時、点滴をしていた患者は8名(40%)、していなかった患者は11名(55%)、覚えていない患者は1名(5%)であった。点滴台を自分で押して歩いた患者は6名(75%)であった。点滴台を自分で押して歩いた事についての感想は、いつもと変わらなかったが4名(66.7%)、不安だった・何も感じなかったが各1名(それぞれ16.7%)、という結果であった。いつもと変わらなかった理由として、「手術前から点滴をして歩いていたため」であった。「不安だった」と答えている患者も、点滴台を押して歩く事に対しての不安感ではなく、手術に対しての不安感であった。

#### 3. 歩行入室の認知度・抵抗感の有無

歩行入室をされた理由を図3に示す。病棟の看護師から歩行入室の説明を聞き、初めて歩行入室という言葉を知った患者は19名(95%)であった。知っていた1名も看護師であった。この事は、テレビ等でも手術室入室時にストレッチャー移送の場面がある事や、これまでの「手術=ストレッチャー移送」というイメージがあるためであり、歩行入室の認知度は低いと考えられる。

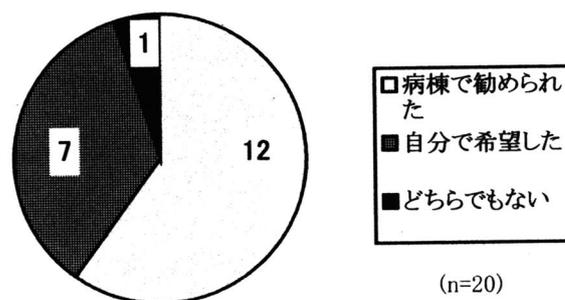


図3. 歩行入室をされた理由

歩行入室に対して抵抗を感じた患者は1名(5%)で、ほとんどの患者が抵抗を感じていなかった。抵抗を感じなかった患者の中には「時代の流れだと思った」「病院の方針だと思った」という意見もあった。

#### 4. 手術経験の有無・前回との比較

これまでに、手術を受けた事がある患者は14名(70%)であり、前回の手術室入室と比較して、①歩行入室がよかった・変化はなかったが各3名(それぞれ21%)、③前回の手術の事を覚えていないが2名(14%)であった。歩行入室がよかった理由として、「ストレッチャー移送では、天井しか見る事ができず、手術という実感がより一層わいた」「病人みたい」という事であった。前回の手術と比較して、「歩行入室がよかった」「変化はなかった」という意見はあるが、「ストレッチャー入室がよかった」という意見はなく、歩行入室に対し、マイナスイメージはないものと考えられる。

#### 5. 歩行中の気持ち

表1に歩行中の気持ちを示す。

##### 1) 病棟～手術室に到着するまで

回答が多い順に、①緊張した②いつもと変わらなかった、③不安だった、④怖かった⑤安心した、という結果が得られた。

##### 2) 手術室内に入ってから

1)と同様、回答が多い順に、①緊張した、②いつもと変わらなかった、③不安だった、④怖かった、⑤安心した、という結果が得られた。1)、2)ともに安心した理由として、「どのような場所で、手術をするのか自分の目で見る事が出来たから」であった。また、その他の意見としては、「とうとうきた」「先生に任せよう」・「まな板の鯉」というものであった。

表1. 歩行中の気持ち (複数回答)

	病棟～手術室到着まで	手術室内に入ってから		病棟～手術室到着まで	手術室内に入ってから
安心した	1人	2人	気持ち悪かった	0人	0人
変わらなかった	8人	6人	緊張した	11人	9人
不安だった	5人	5人	恥ずかしかった	0人	0人
怖かった	2人	4人	何も感じなかった	0人	0人
疲れた	0人	0人			

### 3) 手術室に入室後、麻酔導入まで

手術台に登る際、「足段を使用する恐怖感を感じなかった」は17名(85%)、「脱衣時の羞恥心を感じなかった」は18名(90%)であった。また、手術室看護師への要望として、「音楽をかけて欲しかった」「手を握って欲しかった」との意見があった。また、手術室の通路や各手術室内には、様々な手術器具や物品があり、患者にマイナスイメージを与えるのではないかと危惧していたが、物品が目につれないようにして欲しかったという意見はなかった。逆に、手術物品を見ることが出来て、このような物品を使って手術をしていると分かり、安心したという事であった。1)、2)、3)より、手術に対する緊張感や、不安感はあるものの、手術室内を自分の目で確認する事で、安心感につながったのだろうと考える。また、足段使用時の恐怖感や、脱衣時の羞恥心を感じた患者もいた。研究当時は浴衣での入室であったが浴衣だと意識のあるルート確保時に上肢を出しておく必要があるため羞恥心を感じさせる結果に繋がったと考える。その後病棟の協力も得て、現在は術衣と病衣のズボンで入室しているが、恐怖感や羞恥心を感じさせない配慮が今まで以上に必要ではないかと考える。

### 6. 次回も歩行入室を希望するか

5. 歩行中の気持ちの1)、2)の結果より、歩行中の気持ちで「安心した」と答えた患者が少なかったにも関わらず、「次回も手術を受ける場合、歩行入室を希望するか」との質問には、①身体的状況に応じて(45%)、②精神的理由(35%)で、全員が歩行入室を希望した。①では、「体調がよければ・歩けるなら」という理由であり、②では、「安心できる・心の準備ができる・リラックスできる・歩行がいい・ストレッチャー移送では、周囲の視線が気になる」という結果であった。この事から、「手術を受ける」「ストレッチャーで天井だけを見て移送される」という、非日常的な事柄よりも、「自分で歩く」「自分の目で確認する」という日常的な行動をとる事によって現実を認識でき、安心感が得られるのではないかと考える。上田らは、「ベッドではのぞき込まれ、見下ろされる感じをうけることがあるのに対して、歩行入室は医師や看護師に同じ目線で迎えられ会話できるので、安心感を高めるとも考えられる。」

「能動的に手術を臨む患者にとって歩行入室は、手術への意欲を高めると考える。」<sup>2)</sup>と述べており、森田らは、「歩行入室は術前不安を増大せず、また歩行による運動不可は少ない。」<sup>3)</sup>述べている。これらの事から、歩行入室を行う事で、患者と医療者の関係が平等であるという感覚や、手術を受けるという実感を自分で持つ事ができるため、このような結果になったと推測される。

歩行入室を経験した患者の気付きとして、「手術室内は、部屋数が多く間違いが起こらないか不安になった」「目が悪いため、歩行中眼鏡が欲しかった」「足が悪いため、手術台に登る時に手すりが欲しかった」「手術台の高さが高かった」「病棟看護師と一緒に、手術室内へ入室したい」という意見があった。これらの意見を参考に、患者が安心して手術を受けることが出来るよう、手術室スタッフでできるところから一つずつ改善していく必要があると考えられる。

#### IV. 結論

1. 歩行中の気持ちでは、「緊張した」、「不安だった」、という結果が上位であった。
2. 手術台に登る際、足段を使用する恐怖感や、脱衣時の羞恥心を感じた患者がいた。
3. 不安・恐怖・抵抗感なく、次回も全員が歩行入室を希望した。
4. 手術室まで自分の足で歩く事によって、自分の目で確認でき、安心感を得る事ができたのではないかと推測される。
5. 歩行入室に対してのマイナスイメージはないものと推測される。

#### 謝辞

本研究をすすめるにあたって、アンケート調査にご協力して下さった方々に深く感謝します。

#### 引用文献

- 1) 大野公一・三吉靖子・山本浩一、他：手術室歩行入室の実施，看護管理，第31回，2000年
- 2) 上田和子・坂東真由美・江口静香：OPE nursing 2003 vol.18 no.6(657)，98～101.
- 3) 森田善仁・讃岐美智義・木下博之、他：歩行入室患者における術前不安の検討，麻酔 51，382～386，2002